

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	八王子市立中野保育園
担当	4歳児クラス

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（あげはの飼育と観察）

<テーマの設定理由>

自然に身近にある環境で、日ごろから虫などの発見を楽しんでいる。子どもたちが遊びの中で発見した幼虫に興味を持ち、育てたいという思いを受けたため、飼育することにした。

### 2. 活動スケジュール

- ① 飼育・観察
- ② 表現
  - ・製作
  - ・ゲーム
  - ・自由表現
  - ・模倣遊び

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

図鑑・飼育箱・テレビ・ビデオカメラ・カメラ  
餌（みかんの葉、ゆずの葉）

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ① 飼育観察…飼育箱を保育室内に置き、自由時間等に幼虫の動きや葉を食べる様子や羽化の様子を観察したり、幼虫からどんな蝶になるのかを図鑑で探したりした。保育者が撮影した発達段階の経過の動画や写真を時系列で見ながら、観察の振り返りをした。
- ② 表現…幼虫や蛹、成虫の形態模写や蝶の製作を一斉に行った。また、アゲハに関するゲームについて意見を述べてもらい、その意見を盛り込んだゲームとして、幼虫や蝶の動きを入れた障害物リレーを行った。自由遊びの中で表現したものも取り上げ、みんなで共有した。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

発見時…幼虫の形を「新幹線」と言葉で表現

観察時…脱皮を「服を脱いでいる」、葉の食べ方を「掘っているみたい」と言葉で表現。

羽化の動画を見ると、自然と子どもたちから声援が上がっていた。

成虫を放すときに、なかなか飛び立たない蝶を見て、「どうして飛ばないのかな」という保育者の問いかけに、「風が強いから」「暑いから」「ツバメがいるから」など、飛ばない理由を子どもたちが考えていた。

表現…幼虫の顔を観察していた子が「あおむしの顔」と自分の顔を変えて見せていた。

自由遊びの時間にラキューという構成玩具で幼虫の作り方を見つけ、作って見比べていた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

クラスに飼育箱をおいて幼虫を飼育することで、以前虫を苦手としていた子ども関心を持つようになった。興味を持たせたい対象を身近におくことで、子どもたちの興味・関心を広げていけた。また、担任が関心を持つことで子どもたちの興味関心を高めることができたことも実感した。虫を飼育していることで、「虫」を共通の話題として子ども発信の会話も増えた。興味・関心が深まることで、自分から何かを表現したくなるようで、自発的に絵をかいたり、顔真似をしたりしていた。

自由時間に飼育箱の観察だけでなく、図鑑等を手にすることで、興味・関心を深める援助になったのではないかと思う。特定の虫の飼育の経験から、ほかの生物への関心が広がることに期待したい。

アゲハの成長映像は2回見せたが、1回目、2回目の反応の違いが見られた。1回目は「見る」ことに集中していたが、2回目は映像の説明したい子や羽化の応援するなどの反応が見られた。また、アゲハ飼育をしていない3歳児クラスとの違いも感じられた。3歳児クラスは映像を見ているときは集中していたが、時間がたつと「見た」という印象が薄れていた。クラスで飼育をしていた4歳児は、映像を見ることで、成長の振り返りをしているような言葉が出ることもあり、より印象を深めていた。